

福岡県地球温暖化対策実行計画 骨子

第 1 章 計画策定の背景

①地球温暖化の現状

- 地球温暖化の現状と要因
- 地球温暖化の影響（影響の例、気候変動の影響への適応策の必要性など）

②国内外の動向

- 国際的な動向（COP など）
- 国内の動向（約束草案、長期エネルギー需給見通し、気候変動の影響への適応計画など）

③現行計画の点検・評価

- 施策の進捗状況と目標の達成状況

<参考：現行計画の目標>

2010 年度までに	【家庭】1 世帯当たり CO ₂ 排出量を約 10%削減
2002 年度より	【業務】単位床面積当たり CO ₂ 排出量を約 8%削減
	【自動車】1 台当たり CO ₂ 排出量を約 13%削減

第 2 章 計画の基本的事項

①計画の位置づけ

- 地球温暖化対策の推進に関する法律第 20 条の 3 に基づく法定計画
- 福岡県環境総合ビジョン（第三次福岡県環境総合基本計画）の部門計画

②対象とする温室効果ガス

- CO₂、CH₄、N₂O、HFC_s、PFC_s、SF₆、NF₃

③計画の期間

- 2017 年度から
- 計画終期・目標年度については、国の新たな計画にあわせ、設定予定

<参考：県上位計画の計画期間>

福岡県総合計画	2012 年度～2016 年度
福岡県環境総合ビジョン	2013 年度～2017 年度

④基準年度

- 2013 年度

⑤数値目標の年度

- 中期⇒2030 年度、長期⇒2050 年度

<参考：国の数値目標>

- ・2030 年までに、2013 年比で 26%削減
- ・2050 年までに、1990 年またはより最近の複数の年と比較して 80%削減

第 3 章 福岡県の地域特性

①自然的条件

- 地勢、気候、平均気温・降水量・短時間強雨の変化 など

②社会的条件

- 人口、世帯数、自動車台数、産業構造、県内総生産、公共交通機関利用状況、再生可能エネルギー導入状況 など

第 4 章 温室効果ガス排出量の現況推計・将来推計

①現況推計

- 二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素
 - ・1990 年度～2013 年度の排出量
- 代替フロン等 3 ガス
 - ・1995 年度～2013 年度の排出量
- 三フッ化窒素
 - ・2013 年度の排出量

②将来推計

- 2030 年度における特段の対策を講じない場合の排出量

第 5 章 温室効果ガス排出削減目標

①中長期目標

国の新たな計画にあわせ設定予定

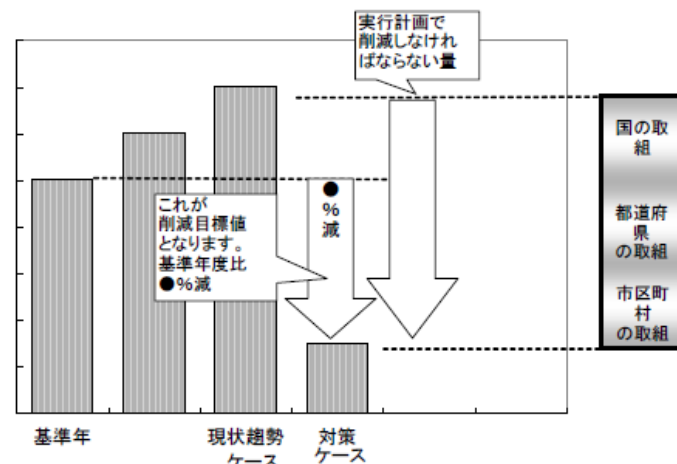
- 2030 年度（中期）：総量目標、原単位目標

※5 年毎に見直し

※補助的な指標として、エネルギー消費量の目標も設定

- 2050 年度（長期）：総量目標

<参考：具体的な目標算定方法のイメージ>



出典：地球温暖化対策地方公共団体実行計画（区域施策編）策定マニュアル（第 1 版）

第 6 章 県における地球温暖化対策（緩和策、適応策）

①施策体系

地球温暖化対策

温室効果ガスの排出削減と吸収対策（緩和策）	省エネルギー対策の推進	家庭部門における省エネルギー対策 業務部門における省エネルギー対策 自動車部門における省エネルギー対策
	CO ₂ 以外の温室効果ガス排出削減の推進	再生可能エネルギーの導入促進
	多様なエネルギーの確保	その他多様なエネルギーの効率的利用
	森林の適正管理	森林の適切な管理 荒廃森林の再生

+

気候変動の影響への適応（適応策）	農業、森林・林業、水産業分野における適応策
	水環境・水資源分野における適応策
	自然生態系分野における適応策
	自然災害・沿岸域分野における適応策
	健康分野における適応策
	産業・経済活動分野における適応策 県民生活・都市生活分野における適応策

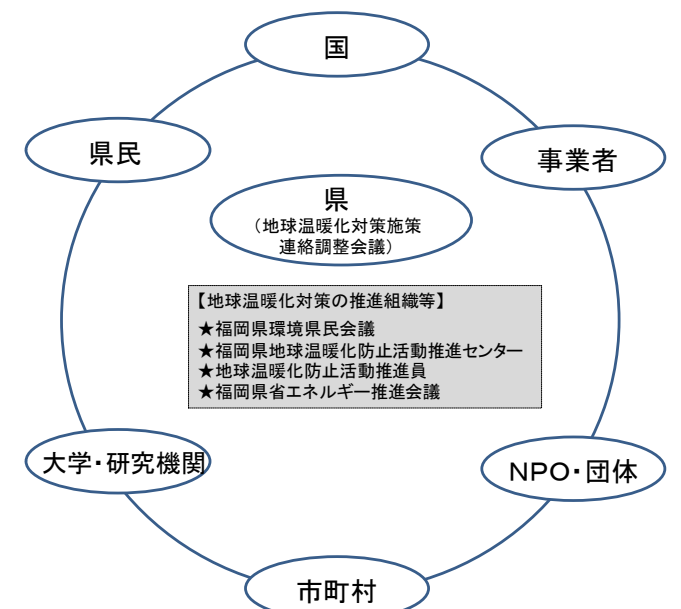
②主な施策

- 施策体系に応じた各主体の取組

第 7 章 計画の推進体制・進行管理

①計画の推進体制

- 各主体の連携・協働による地球温暖化対策の推進



②計画の進行管理

- 計画の点検方法（福岡県環境白書など）